

伝統港における新しい戦略

New tricks for an old port

Brian Rodrick

(概要)

2004年7月1日にテロ対策セキュリティの一環として、国際的な船舶及び港湾施設の保安コード（ISPSコード）が実施された。300年の歴史をもつアイルランドのコルク港においても、コードを適用するに当たり様々な課題が生じた。この課題に伝統港はどのように対応したのか。その取り組みをブライアン・ロドリック（Brian Rodricks）（*注1）が紹介する。

300年以上の歴史をもつアイルランドのコルク港は、国際的な船舶及び港湾施設の保安コード（ISPSコード）に適應した港になるべく、多くの課題に直面している。ブライアン・ロドリックは答える。



車両ナンバー記録（VNPR）カメラはROROターミナルにいるすべての車両を記録する

安全に対する全ての脅威を事前に察知し抑止するために国際的な枠組みが構築されている中で、また、港湾関係者間の役割と責任を明確にするために、世界の港はISPSコードにもとづく検査をより一層厳しくするよう求められている。

このコードにおいて、船舶と港湾施設の安全を確実にする事とは、その場の状況に応じたリスク管理をすることである、とされている。そして、コルク港においても完全に統合されたセキュリティーシステムを用いて、これらの課題に取り組んでいるところである。

アイルランドで最も大きく、そして経済的にも重要な港であるコルク港は、1年に3000隻以上の船舶が利用し、その価値が350億ユーロを越える1千万トン以上の貨物を取り扱っている。これまでの300年以上に亘って、発展する船舶産業の要求に応えドラマテックな変化を遂げてきた。しかし、I S P Sへの適応はこれまでとは違った変化を意味しており、コルク港は次のような課題に対する答えを求めていた。

コードへの課題に適応することの可能性、しかし、可能としなければならない。

変化する状況への素早い対応と、将来の安全への要求に対して千年経っても通用する柔軟性を有すること。

これらを実現するため、安全のスペシャリストであるA D Tとの契約が交わされた。

課題

コルク港はコード適応へ効率的に取り組んでいくために、幾つかの独特な課題をA D Tに示した。

- 1). 4つのエリアで構成された15km²の広さをもつ巨大な港の監視は困難である。しかし、その港の持つ能力を制限することがないような集中リモートコントロールシステムを提案すること。
- 2). 残された時間が少ない中で、コルク港は効果的で能率的な管理体制を必要としている。最も混乱が少ない方法で変革を早急に実行したい。
- 3). この様にコルク港は今日のI S P Sコードが要求している上記2つを必要としているが、将来の変化にも対応可能なものを求めている。導入されるシステムは日々変化する港の発展とそれに伴う安全対策の変化に対応できるような最先端技術と柔軟性の2つが必要とされている。

解決策

A D Tが選ばれた理由の一つとして、安全面での解決策については通常と違った状況に対応可能な能力を持っているということである。すべての技術的な作業と電子化の作業はA D Tが担当した。今回のプロジェクトがあらゆる局面に対応できるように、A D Tのみで作業を行った。その理由は、コミュニケーションが円滑化され、よりスムーズにプロジェクトを実施するためである。

A D Tは現場の専門知識とノウハウを重視し、現地に専任のプロジェクトマネジャーを派遣する。専任のマネジャーは、プロジェクトをスムーズに進めていくと共に、彼らの親会社であるTyco Fire & Securityからの設備をスムーズに導入する役割を演じる。Tyco Fire & Securityは設備に関し、高度な知識を有しており、A D Tに対し強固な設備の供給関係を持っている。

コルク港システムの鍵となる特徴、つまり現地の地理的な挑戦に対応するものは、閉回路テレビシステム(CCTV)と入港制限である。

閉回路テレビシステム(The CCTV system)

閉回路テレビシステムは光ファイバーにより接続され、コントロール可能な24のカメラで構成されており、マイクロ波を利用することにより約3km離れた地点までデータを送信することができる。またコントロールオフィスにて画像を録画し、加えてRORO船に出入りするすべての車を自動的に記録する自動車ナンバープレート記録装置(VNPR)を備えている。

大水深岸壁への入場はまた、バリアコントロールと自動車ナンバープレート記録装置をもった交通管理システムで制御されている。登録されたナンバーを持つ車両のみが自動的に入場できるようになっている。

入港制限システム(The access control system)

入港制限システムは港全体に張り巡らされており、集中コントロール施設からドアや、バリア、ゲートや回転扉等のリモート制御管理が可能となっている。

現代科学技術がこのネットワーク化を可能としたことは、コルク港のシステムでも同様である。ハードウェアに光ファイバーとマイクロ波を利用した送信装置を標準的に備え、閉回路テレビシステムと入港制限を利用するこの港のネットワークは最高のレベルにある。数キロも離れた場所の情報が送信可能となったことにより、オペレーターは離れたところから港の監視をすることができるようになった。

更なる進化へ

セキュリティニーズの早い変革ペースや安全性向上の必要性を考慮して、高レベルの柔軟性をシステムに持たせること、それがこの港の次のリクエストであった。そして今、コルク港のシステムは、周囲の環境や要求の変化に対応し、成長する能力を持っている。

A D Tは今後5年間のメンテナンスサービスを実施することにより、システムが効果的に稼働することを保証している。

コルク港の港長であり副執行役員でもあるパット・ファルナン船長(Pat Farnan)は「A D Tを指名できたことに喜びを感じる。A D Tはノウハウと高い専門性を備え持ち、期待される以上のことを実行できる力がある。すべての技術的作業と電子化の作業に関する唯一の契約者として、このシステムを開発し管理する能力が認められてプロジェクトを引受けることとなった。」と述べ、また、「日常的に港を利用する船社、旅客は我々が今備えている強化された安全管理の恩恵を受けるだろう。」とも付け加えている。

安全に磨きをかける

海上警備に関するアメリカの国家的戦略がホワイトハウスのパネラーによって選定された。テロ対策と商取引のバランスを取るようにされた戦略には3つの強力な原則が含まれている。

- 1) 海の自由
- 2) 経済活動の流れを阻害しない
- 3) 国境の良好な監視

この戦略の目的は、a)テロや犯罪行為の阻止；b)人口中心地と主要施設の防護；c)最小のダメージ/攻撃を受けたあとの迅速な復興；d)海と海洋資源の保護である。

沿岸警備隊大佐、グレン・ウィルツシャイアー (Glenn Wiltshire) は「この戦略は進行中」であると強調する一方で、「しかしながら、一つのテロリストによる攻撃により、全アメリカの港が閉鎖されるという産業界の恐れは取り除かれる。それどころか、アメリカ政府はこの戦略が「特定の脅威への対応、一方で経済活動はそれにより阻害されない」ということを認めている」と述べている。

戦略は完全に機密化されているが、29のシナリオが確認されている。ウィルツシャイアーは、「脅威を和らげるための戦略が重要な要素である」と最後に付け加えた。

機密扱いとなっていない戦略は www.dhs.gov/interweb/assetlibrary/HSPD13_MaritimeSecurityStrategy.pdf で閲覧可能である

期待以上に・・

多くの船舶が2004年7月1日時点でISPSコードに従うことができないのでは、とさやかかれてはいたがその意見は覆された。」と東京MOUの岡田副事務局長は語っている。東京MOUとは、ポートステートコントロールを効率的に行うためにアジア太平洋地域における18カ国で構成された国際的枠組みである。パリMOUと共同でISPSコードの実施キャンペーンを行った。

計5,253隻の対象船舶に対して、検査官はコードが順守されているか標準検査項目に基づき検査を実施した。船員の資格、船の安全レベル、乗船へのチェック体制、船内の制限区域、乗組員間でのコミュニケーション、乗組員に対し船舶の安全計画に対して実効性のある訓練を実施しているか、などである。

5,253隻のうち()55隻が停船命令を受けた。

()239隻が安全関係の備品について再検査を受けるよう要請された。()364隻が管理不足を指摘された。()16隻が活動を制限された。()11隻がコード違反のため入港を拒否された。全体としては、ISPSに基づく停船命令は1.05%であった。これは同時期に実施された地域全体での検査の結果5.9%に対し少ないものであった。

ADTのアイランド担当であり、港湾の安全に関する最高責任者、リアン・ブリュー氏 (Lien Brew) は、「この契約は港湾におけるADTの保安能力を強化する一つのテストケースである。そして、我々の深い知識と専門性によって、ポートオペレーターが直面している港湾特有の課題を理解し、その本質を見抜き、この港湾に適した解決策を提供していくことができるのである」と感じている。

(*注1) ブライアン・ロドリックはADTの親会社であるタイコ・ファイアー・セキュリティ (Tyco Fire & Security) の国際海運市場マネージャーである。

(抄訳者 近畿地方整備局 和歌山港湾事務所 港務課 大総学)
(校閲 国際港湾協会 日本会議 事務局)